



平成29年6月26日

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

日本原子力研究開発機構から受け入れた被ばく作業員（二回目の入院）の方々の退院について（お知らせ）

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(理事長：平野俊夫 以下、量研)は、放射線医学総合研究所（以下、放医研）において、日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター燃料研究棟で被ばくされた作業員5名を患者さんとして受け入れ、緊急被ばく医療施設などで検査と治療を行ってきました。

6月7日～6月13日の一回目の入院とDTPA(注1)治療に引き続き、6月18日までに患者さん全員が二回目の入院をされ、2クール目のDTPA治療を実施してきましたが、それが終了し、本日（6月26日）までに、全員の患者さんが量研放医研から退院されたので、お知らせします。患者さんの容態に特段の変化はありません。

なお、最初の入院時の肺モニター検査でプルトニウムが検出されなかったにも関わらず二回目の入院となったのは、肺モニター検査よりもさらに微量まで検出できる一方、測定に時間がかかるバイオアッセイ(注2)検査の結果から内部被ばくが確認され、かつDTPA治療の効果が認められたことを受けて、再度のDTPA治療を実施したためです。

複数回の入院をしていただくのは、5日間を1クールとするDTPA治療と、その後の治療休止期間の反復によるものです。また、三回目の入院を含めた今後の治療については、バイオアッセイ検査の結果などにより、患者さんごとに判断することになります。

— 以上 —

(注1) DTPA：ジエチレントリアミン5酢酸（英語名：Diethylene-triamine-pentaacetic acid）。体内に取り込まれたプルトニウムの体外排泄を促す効果があるとされる、キレート剤と呼ばれる薬剤。プルトニウムを積極的に排出し、内部被ばくの量を減らす効果が期待される。

(注2) バイオアッセイ：個人の被ばく線量評価のため、尿、便など人体からの排泄物中の放射性核種の放射能を分析する方法。